盃状穴調査ネットワークと調査隊の結成について
—R6 年調査隊活動報告—

領家 玲美・ぶらり！相模原盃状穴調査隊

はじめに

「盃状穴（はいじょうけつ）」とは、旧街道沿いの神社や寺にある手水鉢や灯篭基壇、石橋などの石造物等に人為的に穿たれた直径約５～ 8㎝程の盃状の丸い穴のことである。民俗学の学術用語として昭和初期から呼称されているが、当初は原始～古代の穿穴に対して付けられた経緯があり、山口県山口市の山口盆地に所在する神田山古墳の石棺の蓋石上に発見されたことを考古学者が報告する（国分 1990）など､両学問をまたいだ研究対象である。一見、風化や自然劣化による欠損や損傷と見られがちで、現代ではその存在をはっきりと認識していない「隠れた文化財」と言える。

しかしながら、この穴はいつの時代に、誰が、どのような目的で穴をあけたのか、学術的に解明されていない。これまで西日本を中心に調査や記録が為されてきたが、東日本ではあまり「盃状穴」として調査されていないのが現状である。そこで、考古学の研究者を中心に盃状穴を文化財として確立し、調査していこうという意思のもと集まったメンバーで「盃状穴調査ネットワーク」を立ち上げた。今回は、調査組織と相模原市内の調査隊結成について、その経緯と令和６年度の活動内容を報告する。

１．盃状穴調査ネットワーク

「盃状穴調査ネットワーク」は、盃状穴について、基礎的事項（５Ｗ）を把握して、考古学及びこれに関連する諸学問に基づき、文化財としての価値を明らかにすることを目的として、事例の広域収集と情報公開、情報共有、調査研究、巡見会事業を行っていく研究会である。年２回程度の巡見会を行い、その成果はシンポジウム及び印刷物により順次公開していく。事務局は東京都、山梨県の文化財関係職員により設置されるが、広く情報共有を行うことを目的としているため､会員登録を行わず､目的、事業に賛同したものをもって構成されている。会則や事務局名簿は令和５年４月１日付けで整った。

ネットワークを立ち上げた当初、コロナ禍と重なり巡見やシンポジウムは行えなかったが、個別に調査研究は進めていた。世相を見ながら徐々にシンポジウムに向けた準備会や巡検会を準備し、2020 年 12 月に第１回巡検会が山梨県甲州市と山梨市で行われたのを皮切りに、2023 年６月に法政大学、2024 年７月に東京都日野市、同年９月に山梨県甲州市、計４回実施された。

２．ぶらり！相模原盃状穴調査隊の結成

相模原市は、以前より盃状穴の分布範囲が山梨県や東京都の中央線沿いや街道沿いで確認されていることから、立地的に隣接しており、盃状穴の分布が確認できるであろうとネットワークの会員から予測されていた地域であった。平成 30 年頃、筆者（文化財保護課所属当時）に同会からの調査の誘いがあった。地域の文化財をパトロールしてもらい、地元に詳しい方ならこの調査に関心を持つかもしれないと思い、文化財保護課の文化財調査・普及員（市民ボランティア）のみなさんに盃状穴について、そういった穴に見覚えがあったら教えて欲しいと呼びかけた。その際、古道班メンバーが興味を持たれ、日頃の活動のなかで併せて探してみるという嬉しい声かけと、ここで見たものは盃状穴かもしれないという写真を見せてくださる方など数名の心に盃状穴調査の火が灯った。

コロナ禍が明け、筆者が博物館に異動となり、当館の民俗担当学芸員に盃状穴調査について相談した。旧市内の盃状穴を調査するならば、手始めに平成 20・21 年に行われた石造物調査票（写真１）からあたってみてはというアドバイスをもらった。これは市史の資料収集のため、市史編さん室が各公民館単位で調査メンバーを募り、地域の石造物を網羅的に調査した記録であり、当時の石造物の場所や写真資料が現在もファイリングされ残されているものである。この資料を活用すればまず大枠は掴めるだろうと踏んだ筆者は、令和６年の春に改めて古道班や興味を持ってくれた市民ボランティアさんに声を掛けた。これまでの盃状穴調査ネットワークの活動資料等を渡し、６月の古道班活動日に全メンバーと検討の末、７月２日に相模原市立博物館において、古道班を母体としつつ興味のある方も加わり、ぶらり！相模原盃状穴調査隊の発足と勉強会を開始した。８月６日には盃状穴調査ネットワーク会員３名に当館へお越しいただき、盃状穴

とはなにか、調査方法等のレクチャーを受けた（写真２）。その際、石造物調査票を見てもらい、これだけの資料があるのは羨ましい！ぜひこれをもとに調査を開始して欲しいと太鼓判をもらった。９月は石造物調査票の保管してある市史編さん事務室に集まり、資料写真等から巡見地の目星をつけた（写真３）。まだ実物を見たことがなかったため、多くの付箋がつけられたが、前任の民俗担当学芸員にざっと明らかに盃状穴ではないものを省いてもらい、巡見地を少し絞った。その際、あまり最初から的を絞らず、広範囲に見ていったほうが良いとのアドバイスを受けた。10 月は実物を見よう！ということで、盃状穴と報告されている（福田 2022）町田市の盃状穴を実見して、目を肥やし、調査カード作成の実習を行った（写真５～８回第１図）。

３．盃状穴調査ネットワーク第１回シンポジウム

10 月 26、27 日（土・日）に、山梨大学で盃状穴調査ネットワーク主催の第１回シンポジウムが行われた。今回のシンポジウム内では、盃状穴とはなにかをテーマとした講義とこれまでのネットワーク調査活動の報告で構成されていた。盃状穴の調査報告は個人での調査、大学、県、地方自治体単位と様々であったが、11 月から相模原市内の盃状穴を調査予定であった本市は、市町村の事業展開の例として相模原調査隊の活動を紹介した（写真４）。

コロナ禍前からの待望のシンポジウムであり、今回は想定を超える参加者があったということで、盃状穴という謎の穴の人を引き付ける魅力、関心の高さが伺えた。

シンポジウムの内容は盃状穴調査の趣旨説明、研究の学史から始まり、東京、山梨県内にみられる盃状穴の事例、街道や参道など人が集まる道沿いでみられる特徴から、四国の巡礼・参詣道沿いにみられる事例、信仰に関わる事例の紹介があった。また、大学の若手研究者より、盃状穴の観察・記録方法としてスマートフォンの位置情報システムや三次元計測などの紹介があるなど豊富な内容であった。

盃状穴がみられる年代幅は広いが、今回のシンポジウムで、調査対象は「二義的盃状穴」である中・近世以降を基本とすることとされ、調査者は共通認識を持った。

盃状穴を穿つ行為は明治・大正時代まで行われていたと思われるが、祖母から聞いたという話はあるものの実際に穴をあけたという人物には会えていないことから、現段階では聞き取り調査の内容は伝承の域を出ない。

しかし、同時代の民俗行事の写真を見ると手水鉢の写真があり、その写真から盃状穴が確認できた事例紹介があった。古写真についても調査対象となることがわかった。文献資料はもちろんのこと、近世に栄えた場所、村と村を結ぶ道筋も確認するべしという調査所見があった。

盃状穴の穿たれる場所は、多くの人が歩くところや集まるところ、結界であり、何に穿たれて、何に穿たれていないのかを含め、調査時には注意が必要であることを改めて認識し、調査のポイントを共有することができた。

その他、会場からは石造物の修復などを専門とされている鶴見大学教授から、何が自然で何が人為的な穴なのか、なかには劣化の結果によるものも混在していると考えられるとの意見があった。石工の方からは、どうやってこの穴をあけたのか、石工でもこれと同じものをあけるには現代の道具では出来るが、石だけ使用してこれだけの数の穴をあけるのは難しい。その道具や工具に興味があるなど様々な方面の意見や感想が活発に交わされた。

２日目の巡見は参加できなかったが、多くの参加者がみられ、実物の盃状穴を見ながら共通認識がもてたと好評であったとのことである。百聞は一見に如かずである。

４．おわりに

令和６年、古道班は大山道をテーマにしており、まずはこの道付近の神社や石造物を調査することとした。大山道のルートは３つあると言われ、今回は府中から小野路、古淵、磯部の渡しへと抜ける府中通り大山道を選択した。11 月、12 月と２回にわけて新磯野・磯部地区を巡見し、めでたく調査隊は第１盃状穴を発見した（写真９～11）。詳細な調査成果については、次回の報告とする。

調査日は古道班の活動日である毎月第１火曜日とした。資料調査は、市史編さん事務室で行うが、休館日に重なった場合は、随時別日を定めて実施した。巡見コース資料作成は調査隊の名簿順とし、資料を担当するメンバーは個別に図書館や博物館へ資料調査に訪れた（第１図）。

巡見中、調査隊メンバーが過去に紹介したことがある青面金剛像（写真 12、文化財調査・普及員通信紙さねさし 38 号）に盃状穴があった。当時はまったく気が付かなかったと驚嘆した。人は見ようと思わなければ必ずしも見えていないのだ。これは盃状穴調査の醍醐味でもある。

調査隊の話を聞いて、参加したいという声が徐々に寄せられている。興味が涌いたら調査隊までお声がけを！

国分直一　1990『盃状穴考－その呪術的造形の追跡－』慶友社
福田敏一　2022「盃状穴について」『東京の道祖神塔辞典－その全記録と考察－』雄山閣
盃状穴調査ネットワーク 2024『盃状穴調査ネットワーク第１回シンポジウム　資料集』

写真１　石造物調査票のファイル

写真２　盃状穴調査ネットワークの調査レクチャー

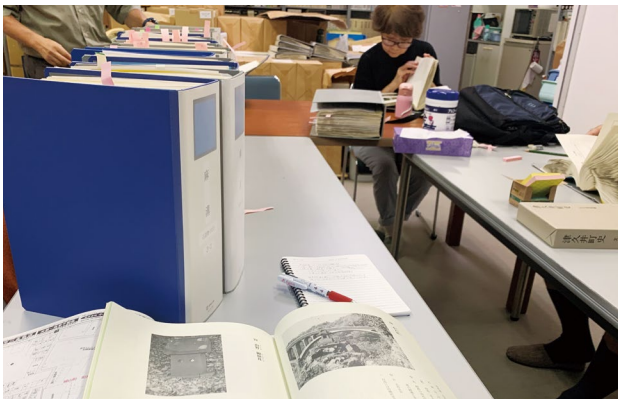


写真３　調査票から調査地を決める

写真４　シンポジウムにて相模原の活動報告

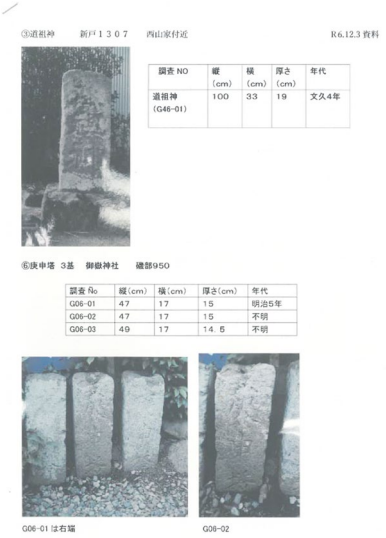
写真５　町田市内の盃状穴の実見と調査実習①（西田金山神社）

写真６　町田市内の盃状穴の実見と調査実習②（西田金山神社）

写真７　町田市内の盃状穴　西田金山神社の手水鉢

写真８　町田市内の盃状穴　金森杉山神社の文字庚申塔

ルートを記入した地図



石造物調査票から写真資料

調査カード

第１図　調査資料一式

写真９　大山道沿いで新磯地区①の盃状穴調査開始

写真 10　大山が見える辻道沿いの道祖神で盃状穴発見！

写真 11　ぶらり！相模原盃状穴調査隊の第１盃状穴発見記念

写真 12　新磯地区②勝坂遺跡南側の青面金剛の盃状穴